

書叢ルラネゼ

(錢五各冊一)

第一編	國家禁酒論	賀川豊彦
第二編	勞働問題と禁酒運動	島田三郎
第三編	近世資本主義の罪と宗教	賀川豊彦
第四編	人間を呪ふ三つの惡魔	菊池米太郎
第五編	公娼制度の破壊	賀川豊彦
第六編	精神文明とアルコホーリズム	賀川豊彦
第七編	普通選挙の精神	今井嘉幸
第八編	消費組合と労働組合	賀川豊彦

普通選挙の精神

法學博士 今井嘉幸

此編は私が大正九年二月帝國議會に於て普通選挙法案提出の理由として説明致したるもの、要諦であり、その議會は御承知の通り普通選挙法案の爲に解散となり、なりましたので我國普通選挙の沿革として永久に記念すべき議會であります。私は當時の速記録を讀みて感慨無量の思ひが致しますので今日此説明には充分満足せぬけれども、せちやラ爾輩の企てに賛し之を一般讀者諸君に頒つるを得たることを光榮と致します。普通選挙法案提出の理由は二方面より説明致します。其一面は現在の選挙法が理論上に於ても没理無根據のものにして又實際上に於ても有害なる而して我國家を危險に導くものなるが故に一日も早く之を廢止すべし云ふ消極的の理由です。